

リフィル処方箋応需に関する調査報告書

一般社団法人 日本保険薬局協会
医療制度検討委員会

2022年6月

- 内容：リフィル処方箋の発行および応需状況の実績、事例、課題等を調査
- 対象：NPhA正会員
- 方法：WEBアンケート **1社1回答** ※グループで一回答でも可
- 回答期間：2022年5月24日（火）～6月6日（月）
- 回答数：103社、11,881薬局（回答率*：69.1%）
- 実施主体：一般社団法人日本保険薬局協会 医療制度検討委員会

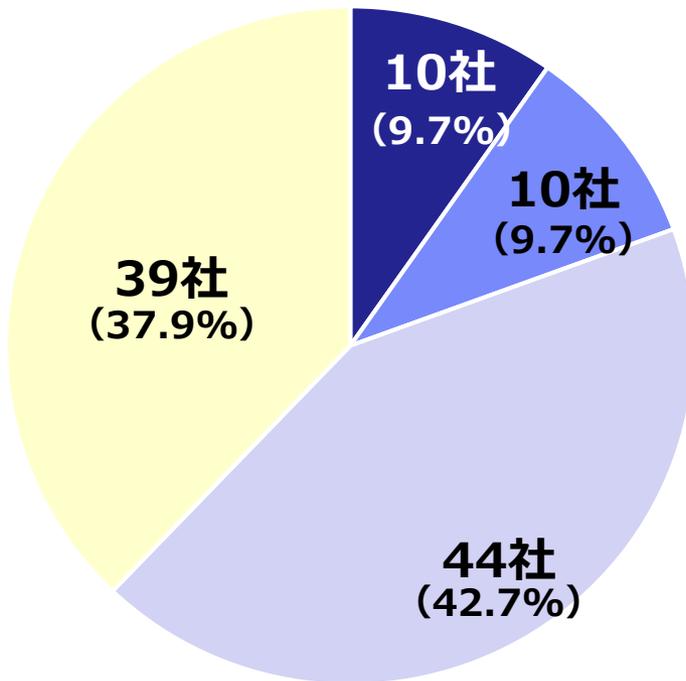
調査結果 Summary

リフィル処方箋発行の予定、意向がある医療機関は**約5%**、リフィルの受付割合が1%以上の薬局は**62薬局**であったことから、一部の薬局に実績が集中している状況が伺えた。また、薬局形態別の比較では、**ドラッグストア等併設型の薬局の方が、受付割合が高い傾向**であった。リフィル処方箋発行の傾向としては、クリニック>病院であり、内科、耳鼻科、整形外科といった診療科が多く、長期継続服用されている患者等からの要望に応じて、処方医が判断している状況が見受けられた。全体としては、受付実績がある薬局は**17.6%**、受付割合は**0.053%**と、多くはないが、回答結果から本部や、薬局の前向きな姿勢、施策が見受けられることから、今後も協会内で情報共有し、正会員の薬局運営に貢献していく。

▶ * 回答率分母：17,186薬局（2022年5月19日時点,NPhA会員ページより）

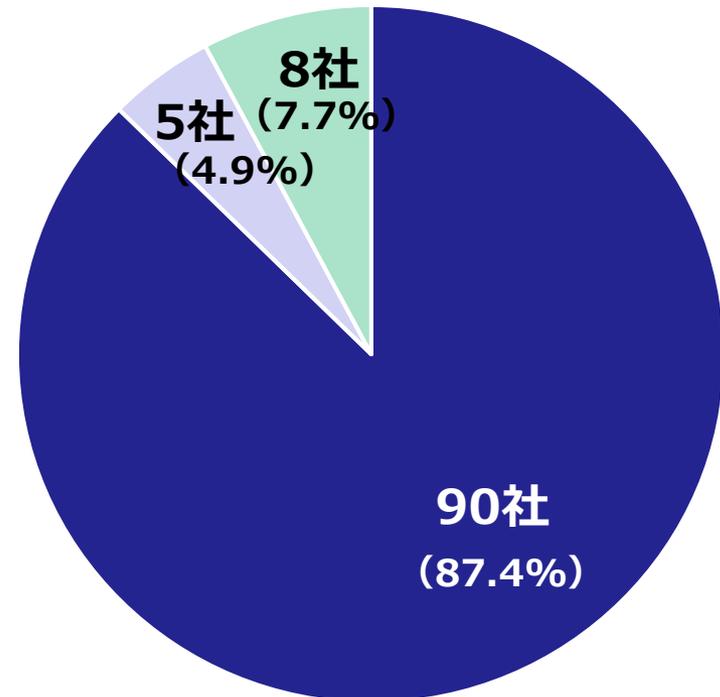
回答数の構成

■ 法人（薬局Gr）の総薬局数
(N=103社)



- 300薬局以上
- 100～299薬局
- 20～99薬局
- 1～19薬局

■ 法人（薬局Gr）の薬局形態
(N=103社)



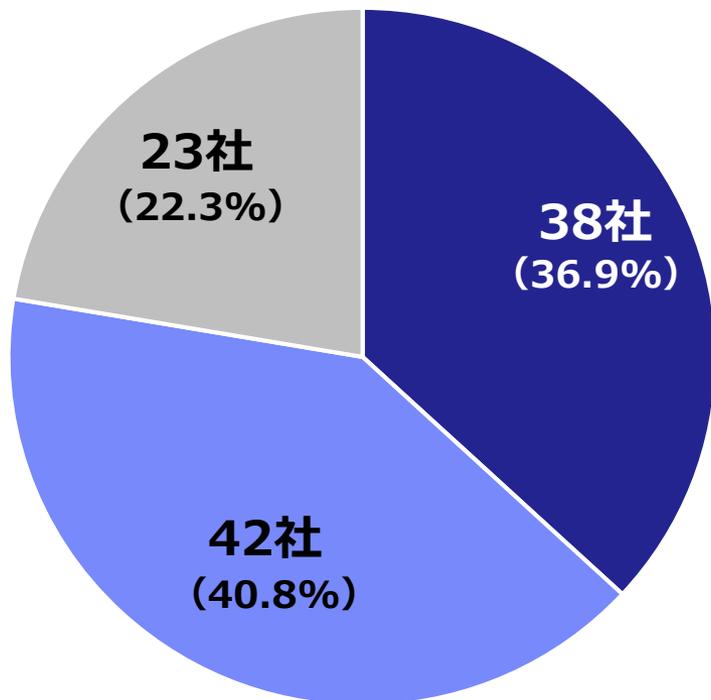
- 調剤メインの薬局を主に展開（総薬局数のうち70%以上が調剤メイン）
- 中間（30%～70%）
- ドラッグストア等併設型の薬局を主に展開（70%以上が併設型）

リフィル処方箋発行の予定、意向

医療機関のリフィル処方箋に対する意向を「概ね把握している」と回答したのは、38社（36.9%）であった。
リフィル処方箋発行の予定、意向がある医療機関は、約5%であった。

問.管轄する薬局が処方箋応需している医療機関のリフィル処方箋に対する意向を把握されていますか？

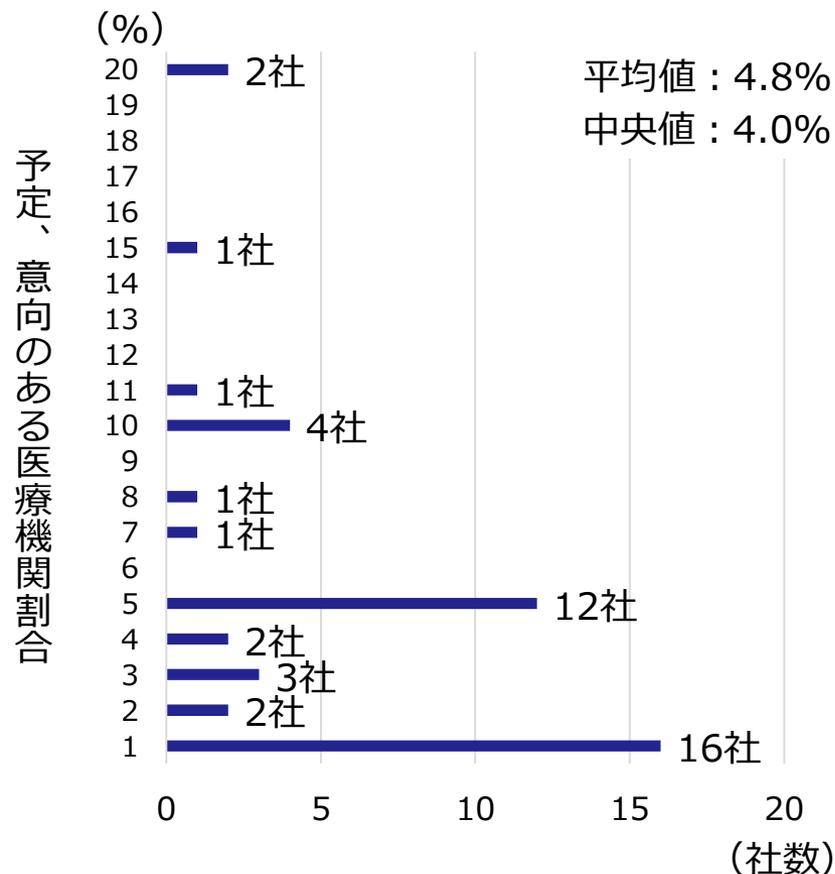
(N=103社)



- 概ね把握している
- 把握できている医療機関もある
- 把握していない

問.リフィル処方箋発行の予定、意向がある医療機関のおおよその割合%を教えてください。

(有効N=45社)

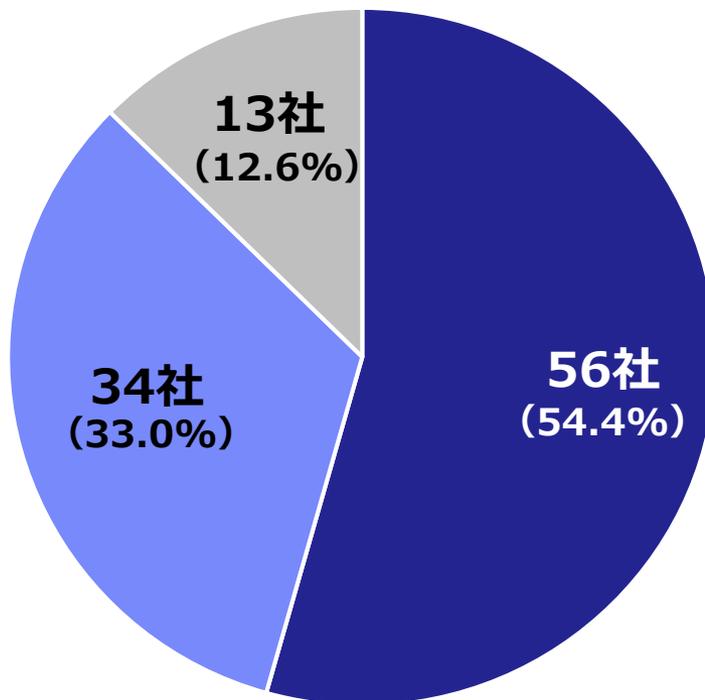


応需実績の把握状況

管轄薬局のリフィル処方箋応需実績を「概ね全数把握している」と回答したのは、56社（54.4%）であった。

問. リフィル処方箋応需実績の把握状況は？

(N=103社)



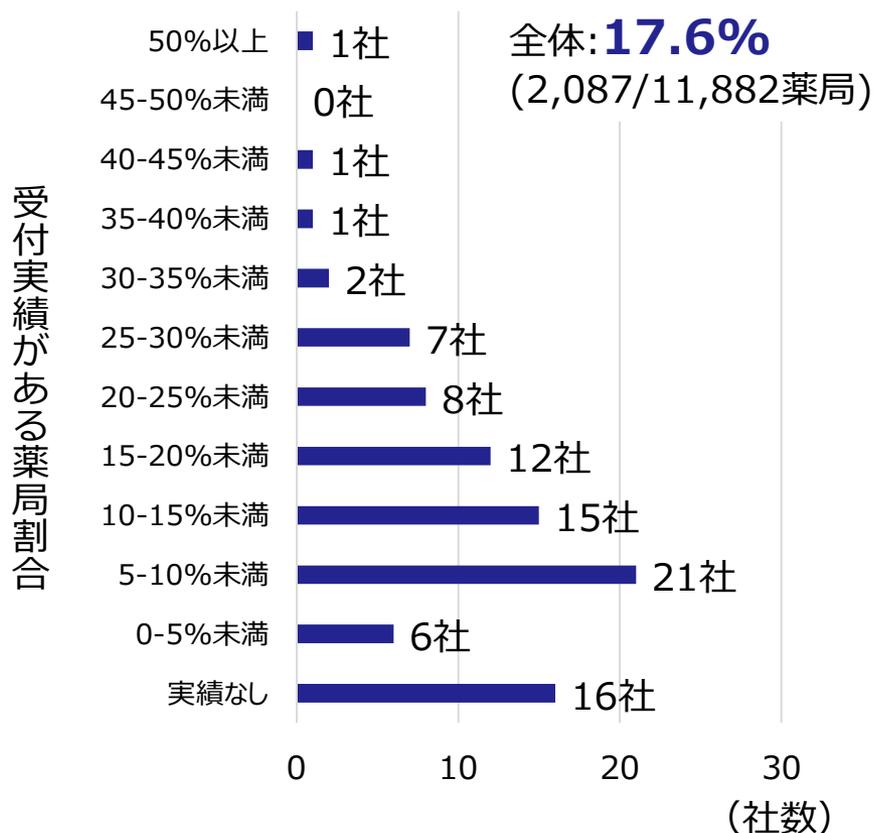
- 概ね全数把握している
- 薬局から事例報告を受けている範囲で把握
- 把握していない

応需実績がある薬局割合

リフィル処方箋の応需実績がある薬局は、全体の**17.6%**であった。薬局形態別に集計すると、回答者数に差はあるものの、**ドラッグストア等併設型の薬局を主に展開している法人の方が、実績を有する薬局割合は高かった。**

問. リフィル処方箋の応需実績がある薬局割合

(有効N=90社)



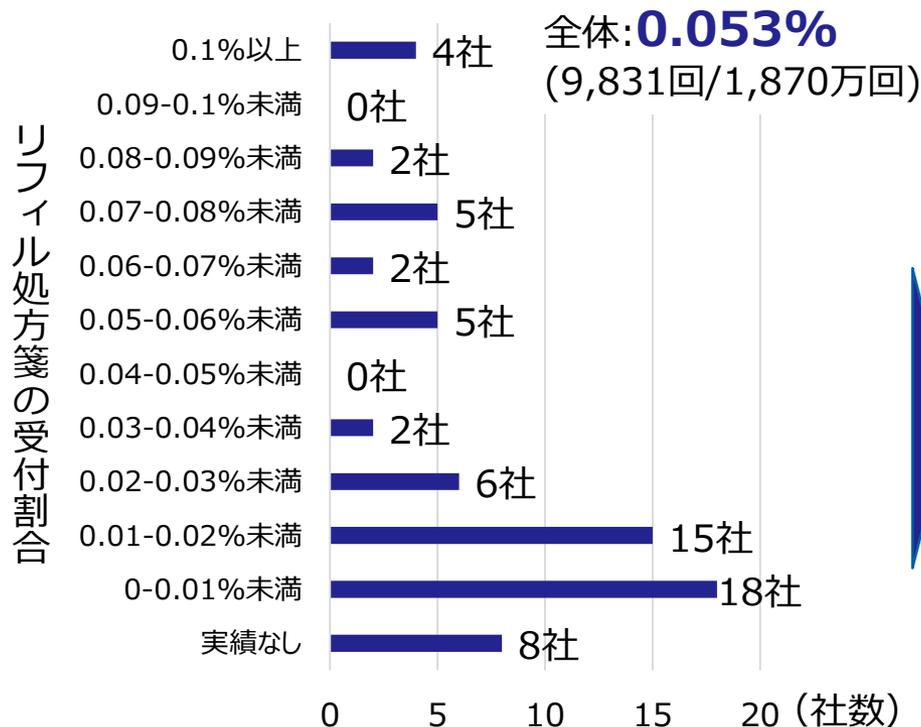
法人（薬局Gr）の薬局形態別の状況

- **調剤メインの薬局を主に展開**
(70%以上が調剤メイン) (有効N=78社)
受付薬局割合: **12.4%**
(912/7,352薬局)
- **中間 (30~70%)** (有効N=5社)
受付薬局割合: **23.6%**
(239/1,014薬局)
- **ドラッグストア等併設型の薬局を主に展開**
(70%以上が併設型) (有効N=7社)
受付薬局割合: **26.6%**
(936/3,516薬局)

全受付回数に対するリフィル割合

リフィル処方箋の受付割合は、総受付回数に対して、**0.053%**であった。受付割合が1%以上となる薬局数は、**62薬局**であり、**一部の薬局に実績が集中している状況が伺えた**。また、薬局形態別の比較では、ドラッグストア等併設型の薬局の方が、受付割合が高かった。

問. リフィル処方箋の受付割合 (有効N=67社)



問. 処方箋受付回数のうちリフィル処方箋の受付回数が1%以上の薬局数を教えてください。(有効N=90社)

受付割合が1%以上の薬局数:**62薬局/11,227薬局**

法人 (薬局Gr) の薬局形態別の状況

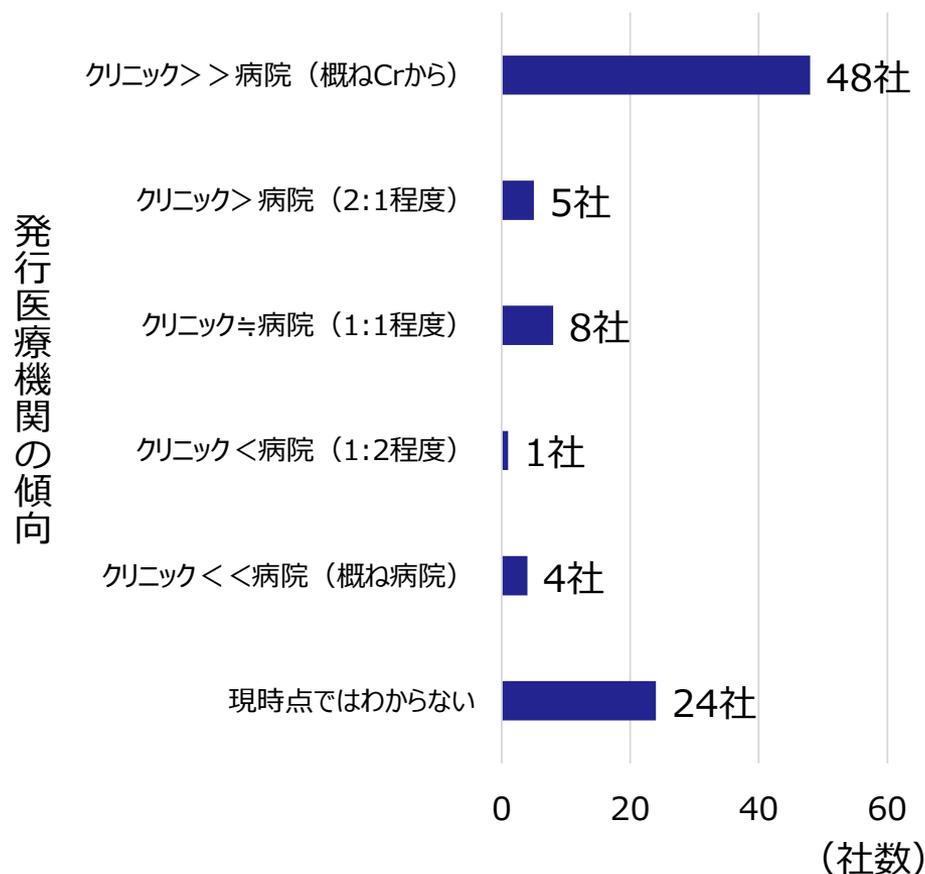
- **調剤メインの薬局を主に展開**
(70%以上が調剤メイン) (有効N=56社)
受付割合 : **0.037%**
(4,946回/1,347万回)
1%以上の薬局数:**27薬局/6,775薬局**
- **中間 (30~70%)** (有効N=4社)
受付割合 : **0.051%**
(723回/143万回)
1%以上の薬局数:**6薬局/1,014薬局**
- **ドラッグストア等併設型の薬局を主に展開**
(70%以上が併設型) (有効N=7社)
受付割合 : **0.110%**
(4,162回/379万回)
1%以上の薬局数:**29薬局/3,438薬局**

医療機関の傾向

リフィル処方箋を発行する医療機関の傾向としては、**クリニックの方が多く**、診療科では、**内科、耳鼻科、整形外科**が多いという回答であった。

問.クリニックと病院、どちらからのリフィル処方が多いか、傾向を教えてください。(有効N=90社)

問.リフィル処方箋が多い診療科について教えてください。(任意回答 フリーコメント)

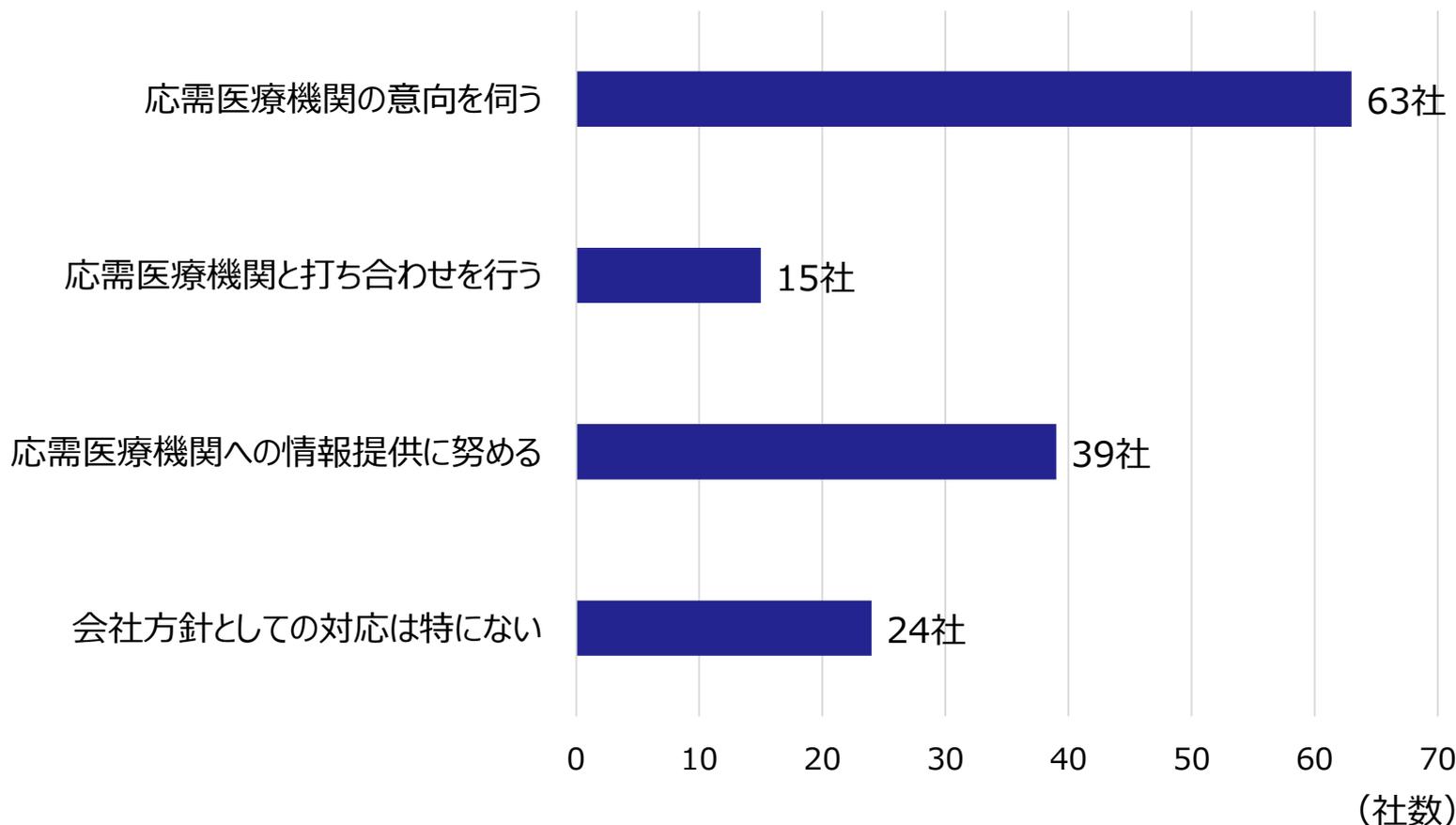


- 内科・消化器内科・循環器内科：37社
- 耳鼻科・耳鼻咽喉科：13社
- 整形外科：11社
- 皮膚科：5社
- 小児科：4社
- 婦人科・産婦人科：4社
- 泌尿器科：3社
- 外科：1社
- 脳神経外科：1社
- 眼科：1社
- ペインクリニック：1社
- 精神科：1社

医療機関との連携に関する会社方針

医療機関との連携に関する会社方針としては、管轄薬局に対して、まずは、「応需医療機関の意向を伺う」といった対応を取っている回答が多かった。

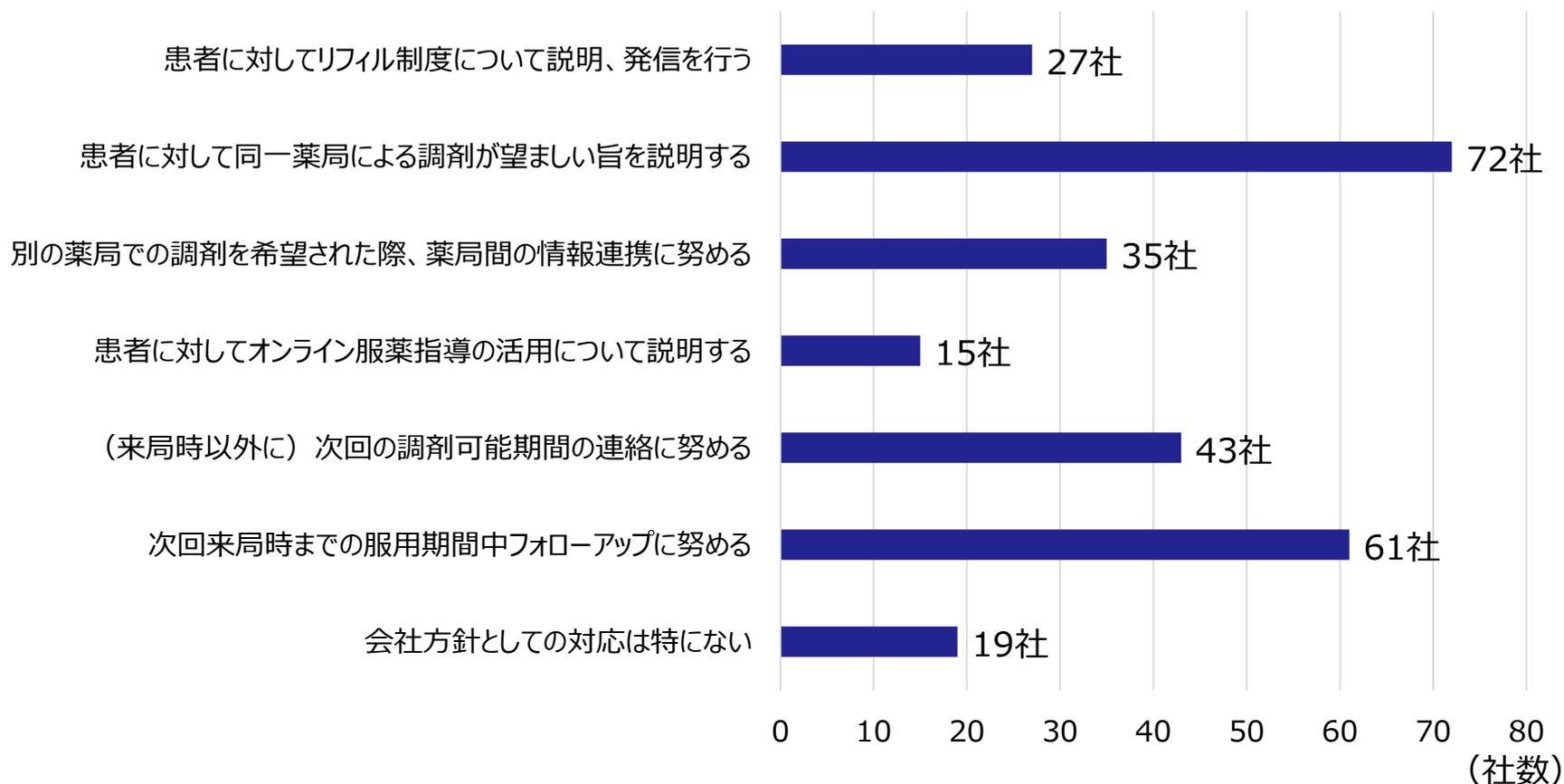
問.リフィル処方箋に関して会社方針として管轄薬局への施策について教えてください。(N=103社)
医療機関との連携に関する会社方針としての施策(複数回答可)



患者対応に関する会社方針

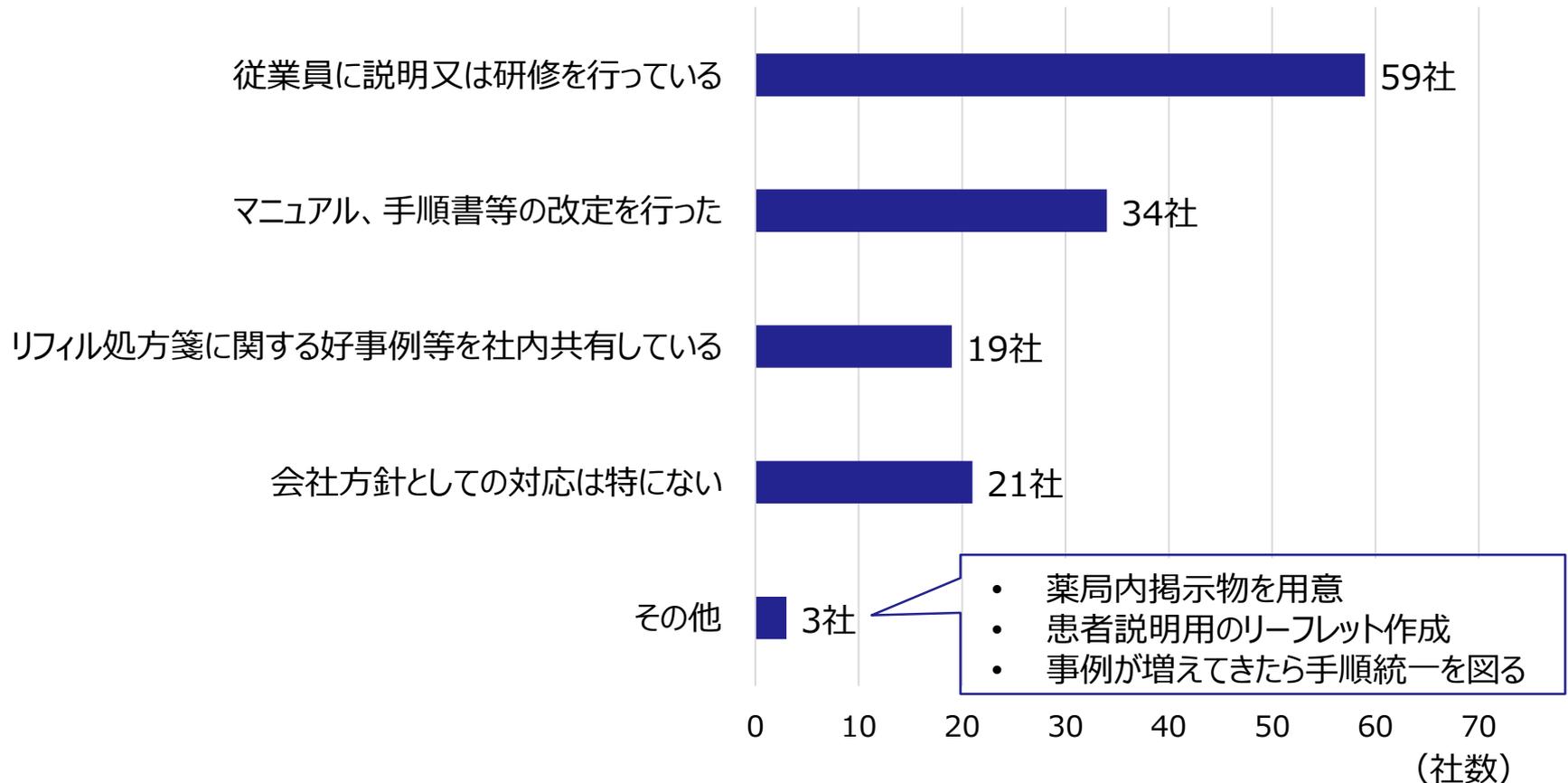
患者対応に関する会社方針としては、管轄薬局に対して、「同一薬局利用の説明」「服用期間中フォローアップ」の対応を打ち出している回答が多かった。一方で、「患者に対してリフィル制度の説明」「オンライン服薬指導の活用」といった施策については、回答が分かれる結果であった。

問.リフィル処方箋に関して会社方針として管轄薬局への施策について教えてください。(N=103社)
患者対応に関する会社方針としての施策（複数回答可）



その他の会社方針

問.リフィル処方箋に関して会社方針として管轄薬局への施策について教えてください。(N=103社)
教育研修、その他、会社方針としての施策(複数回答可)

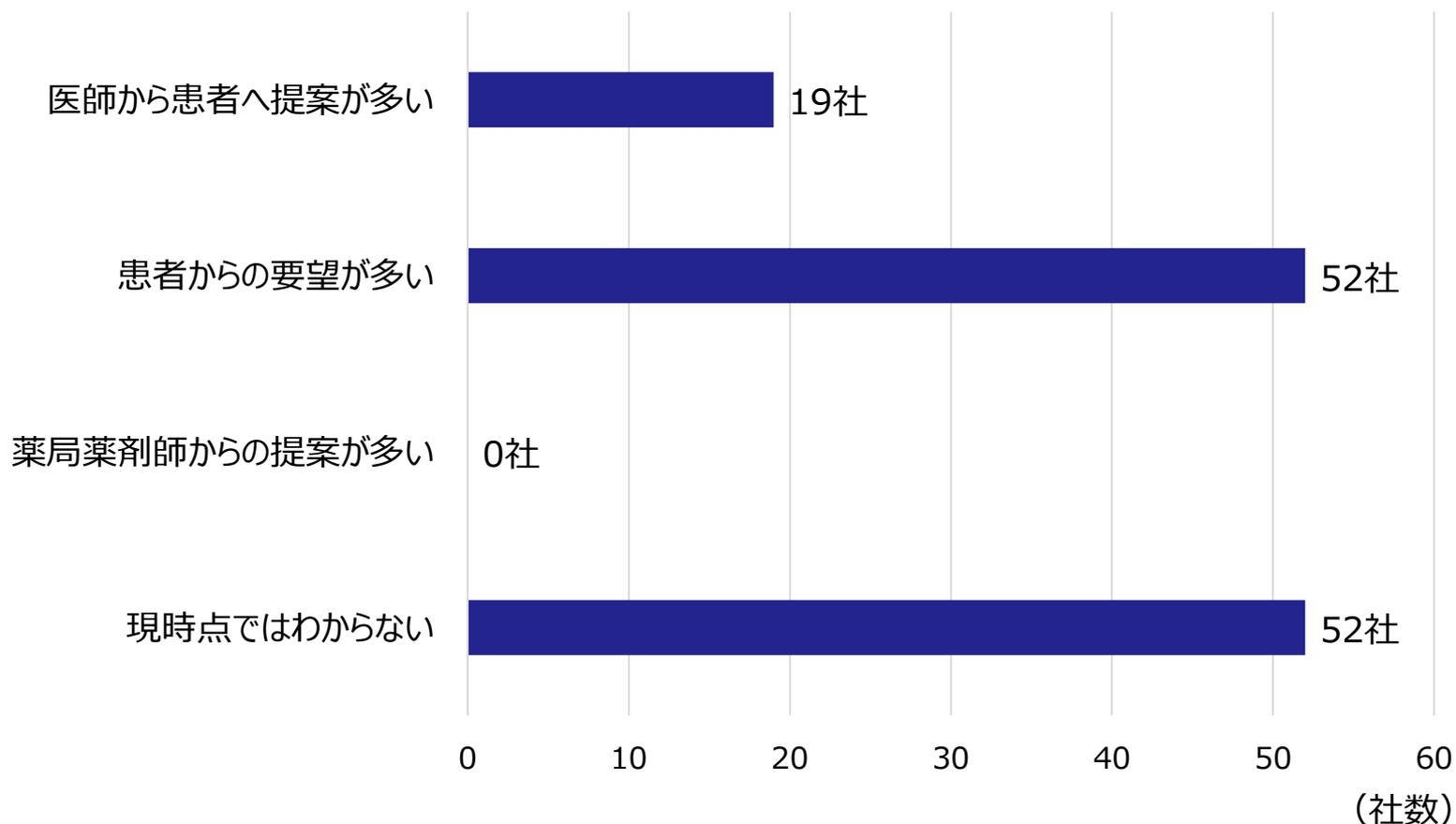


リフィル処方箋発行のきっかけ

リフィル処方箋発行のきっかけとしては、「**患者からの要望が多い**」という回答が多かった。

応需実績が比較的多い薬局へのヒアリング等によりご回答ください。

問.リフィル処方箋発行のきっかけについて傾向を教えてください。（複数回答可）（N=103社）



リフィル処方箋発行の理由

同一処方の繰り返し、遠方から受診されている患者からの要望と、混雑回避、待ち時間短縮、患者満足度向上等の医療機関側の理由以外に、供給が不安定な医薬品の長期処方に対して、リフィルを活用される事例も紹介された。

応需実績が比較的多い薬局へのヒアリング等によりご回答ください。

問.リフィル処方箋発行の理由について傾向や事例があれば教えてください。（任意回答 フリーコメント）

- いつも同じ薬だから。 / ・すべて患者の要望によるもの。 / ・患者希望が少しずつ増えている。
- 患者の希望の可能性あり。 / ・患者からの依頼でリフィル処方箋が発行されていることを聞いている。
- 患者希望に応じて、同一処方を繰り返している方は率先して切り替える方針の先生のご様子。
- メディア等で制度を知り、医師に患者から依頼したケースが多い。
- 遠方よりお越しの患者さまから処方医へ、2回目以降は近隣の薬局で受け取りたいのでリフィルにして欲しいとの要望があり、リフィル処方箋が発行された。
- ある店舗では、事前に医師から薬局へ、症状が安定している方に関してはリフィル処方箋を発行したい旨の相談があった。他の店舗では、基本的に患者様からの依頼で仕方なく出しているという話。
- 医療機関の混雑回避。 / ・診察による待ち時間回避。 / ・外来患者を減らしたい。
- コロナ禍の為、病院内待ち時間の短縮の為に活用されていると思われる。
- 本来は長期処方の希望であるが、医師からはリフィル処方を提案される。 / ・長期処方の減算回避の意図。
- ご高齢の方で、体調安定されている長期処方（ほとんど90日処方）の方が対象とみられる。
- 長期処方だった患者に対してリフィル処方箋が発行されている。 / ・長期処方患者をリフィルに切り替えている。
- 症状が安定していて診察が必須ではない患者に活用 / ・体調が安定した定期患者むけに、通院負担減。
- 耳鼻科は花粉症薬が中心、花粉症が終了していなければリフィルを活用するように指示を受けている患者が多い。
- 遠方患者の受診負担軽減のため。 / ・「患者のメリットのためになるなら」と積極的に啓蒙されている。
- 流通制限のある医薬品がメーカーから1か月分以内での処方をお願いされているため、該当の医薬品を継続服用の患者にはリフィル処方せんが発行されている。
- 供給が不安定な医薬品に対して、供給が安定するまでリフィル処方方にしていく。
- いずれ普及するのであれば最初からやる。 / ・国の方向性を理解。

希望される患者や処方内容の傾向

希望される患者の傾向として、年代にはっきりとした傾向は見られなかったものの、仕事の都合や、定期受診が大変な方等の患者個別の事情も紹介された。また、処方の傾向としては、慢性疾患で長期継続服用される薬剤（高血圧、高脂血症の治療薬等）や、抗アレルギー剤が多いという回答が複数見られた。

応需実績が比較的多い薬局へのヒアリング等によりご回答ください。

問.リフィル処方箋を希望される患者や処方内容の傾向があれば教えてください。（任意回答 フリーコメント）

- 医療機関の待ち時間を気にする患者。診察時間が短い患者。
- 仕事が不規則（夜勤など）につき受診の機会を作れないため。 / ・働いている方が多い。
- 60歳以上の患者様で、足腰の弱い方、ご高齢で外出が大変な方(家族付き添いが必要など)が多いような印象。

- しばらく処方変更のない30～60代の患者
- 医師から相談があった店舗では、30代～60代まで幅広く。
- 患者様から医師へ依頼される方が多い店舗では、50歳前後の方が多。
- リフィル処方を受けた患者は0代～80代まで（20代はなし）慢性疾患が7割。
- 30～50歳ぐらいの年代の患者が多い。 / ・60代男性が多い。

- 症状が安定している、耳鼻科等で通年処方程度が軽い方。
- 年代は問わず、整形外科の痛み止めの処方が多い。
- カルシウム拮抗薬、HMG-CoA還元酵素阻害剤（スタチン系） / ・泌尿器系が多い。
- 年齢・処方内容は多岐に渡るが、定期処方や体質改善のために服用している変更の少ない処方が多い傾向。
- 生活循環病や、慢性疼痛、泌尿器系の疾患が多い。
- 主に内科、耳鼻科、皮膚科を受診する方で、症状が落ち着いている方が多。
- リウマチ、骨粗鬆症の長期処方患者。 / ・降圧剤の1剤～2剤の処方や脂質異常症の1～2剤の処方が多数。
- 生活習慣病で薬の種類が少ない方。体調が安定している方。
- 花粉症と血圧が1剤で安定している患者。 / ・抗アレルギー薬が多い。

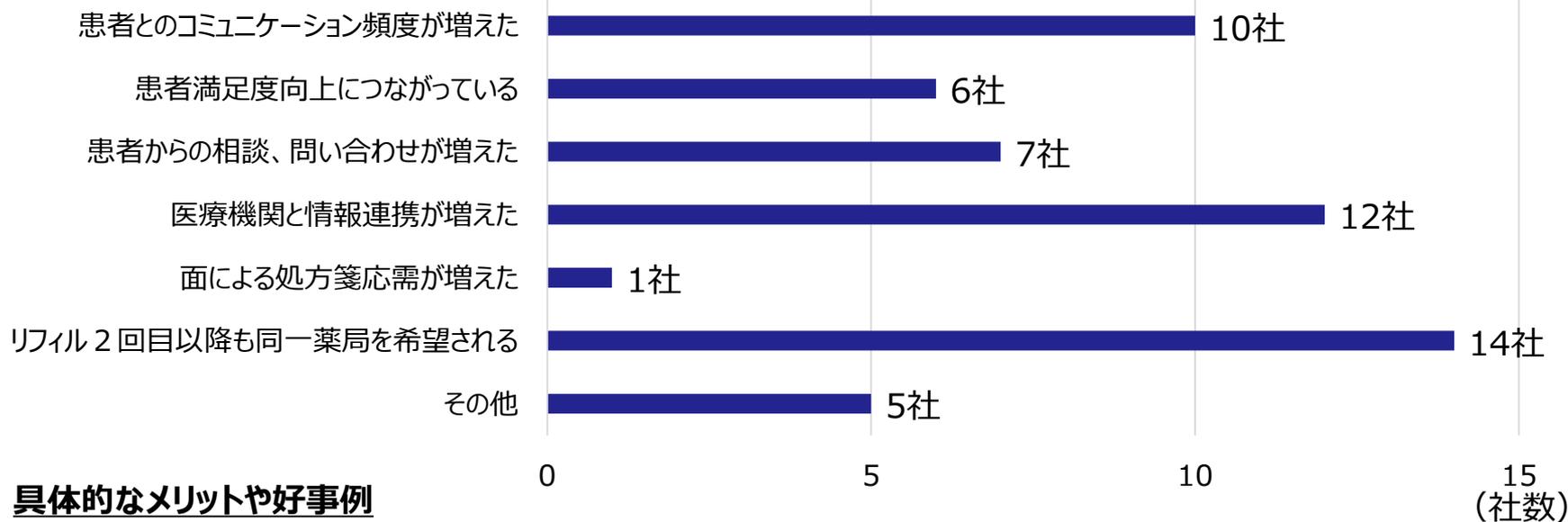
- リフィル処方の日数分布では28日分が最も多く、次いで90日分が多かった。

メリット・好事例

リフィル2回目以降も同一薬局を希望されることが多く、その場合には、来局予想、在庫管理といった点で、好事例としても回答された。また、医療機関との情報連携、患者とのコミュニケーションの頻度が増えることで、薬剤師の意識や、患者へのアプローチの仕方にも変化がでてきているとの回答があった。

応需実績が比較的多い薬局へのヒアリング等によりご回答ください。

問.リフィル処方箋に関するメリットや好事例を教えてください。（複数回答可）（有効N=81社）



具体的なメリットや好事例

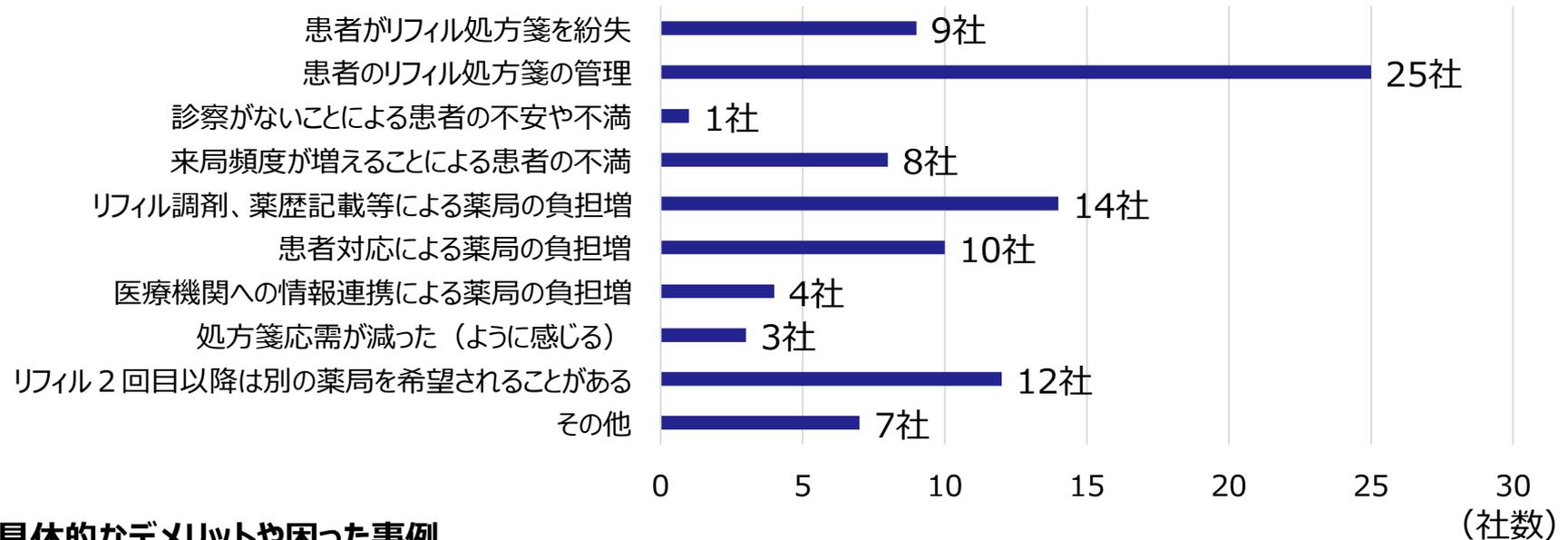
- 受診勧奨の必要有無を判断する上で薬剤師の意識に変化が生じている。
- フォローアップの重要性和タイミングについて対応する薬剤師が考えるようになった。
- 1回目が他薬局、2回目が弊社に持ち込まれた事例はあった患者の行動変容が感じられた
- あらかじめ来局日の予定が立てられるため、先に薬の準備をすることができる。
- リフィル 2 回目以降の来局予想が立てやすく、在庫管理がしやすい。
- 遠方にお住まいの方の受診頻度が減ることで通院の負担軽減ができています。
- 服薬中に連絡を取ることで服薬状況を管理しやすくなり、残薬を減らすことができています。
- 病院での待ち時間がなくなり、患者負担が減っている。 / ・ 病院での待ち時間や支払い負担が軽減できたため

デメリット・困った事例

デメリットとして、「患者のリフィル処方箋の管理」、「薬歴記載等の薬局の負担増」の回答が多かった。また、実際に運用している中で、これまで以上に細やかな対応が求められている現状や、一部、再受診となった事例や、処方箋返し忘れといった事例も紹介された。

応需実績が比較的多い薬局へのヒアリング等によりご回答ください。

問.リフィル処方箋に関してデメリットや困った事例を教えてください。（複数回答可）（有効N=82社）



具体的なデメリットや困った事例

- 外用剤の受診目安の設定漏れによる疑義照会の増加。 / ・日数違いの対応。
- 処方箋有効期限の説明、次回受け取り薬局の確認に時間を取られる。
- 2回目受診の際の処方箋期限が切れていたことがあり、病院へ再受診。
- 期限内の来局がなかった。 / ・経過観察が必要な薬剤が処方された際、リフィル処方可否に迷うことがある。
- リフィル欄の確認。 / ・患者への処方箋返し忘れ。 / ・体調不良の見落としがないようヒアリング、モニタリング。
- 1回目調剤の薬局が定休日のため、2回目の調剤における情報共有ができなかった。
- 薬局薬剤師が医師に対し病院の方針を伝え、リフィルをやめるように説明することに違和感を覚えた。

希望、要望等

好事例、Q&A等の共有、手引きや、リーフレット等の推進するためのツール等のニーズが見られた。また、行政をはじめ、業界全体として、リフィルを推進していくための施策を希望する回答も多く、前向きな姿勢が伺えた。

問.リフィル処方箋に関して、特出すること、希望、要望等があれば教えてください。（任意回答 フリーコメント）

- 好事例、苦勞事例等の勉強会の開催。 / ・事例集やQ&Aの充実や、手引きの作成。
- 住民がリフィルの仕組みを理解できるような情報発信（好事例の発信も含む）。
- リフィル処方箋発行時にリフィル処方箋の概要、紛失などの注意点などが記載されたリーフレットをセットにお渡ししてもらえると負担軽減になる。 / ・リフィル推進のための啓蒙ポスター・チラシ・リーフレット等を作成いただきたい。
- もし処方箋を紛失した際には、処方元と連携し確認できれば、処方箋の再発行をできるようにしてもらいたい（処方箋紛失の実例があるわけではないが）
- 医療機関が反対していることも多く、患者さまへの啓蒙活動がしにくい状況。行政がメリット・デメリットをしっかりと展開して欲しい。また、本来DXにより進むこともあり得るため、厚生局の推進活動にも期待したい。
- 1回目と2回目で残薬調整が入り、処方内容が変わる場合どのような対応になるかの見解を明確に示してほしい。
- 患者様、医師、薬剤師それぞれに、メリットが実感できる制度になって欲しい。
- 行政主導で、リフィルに係る関係各所が前向きに推進できるような制度設計をしていただきたい。
- 患者のリフィル処方箋の認知度が低く、デメリットやメリットも含め理解が少なく、正しくない説明を受けている例も見受けられ、医師もリフィル処方箋で処方可能かどうかや流れを把握していないことも多いので、認知度も高めてもらいたい。また、リフィル処方箋の預りをしてよいのかどうか、オンライン診療で対応できるかどうか等、リフィル処方箋について見解が定まっていない。もしくは、各厚生局で見解が分かれていることが多いため、統一した見解を行政にて出してほしい。 / ・行政等によるメディアでの周知活動があるとありがたい。
- 医療機関側での外用剤のリフィル処方における処方日数の記載徹底いただきたい。
- 患者様の希望を丁寧に聞いて、なぜリフィル処方を出せないのかを説明する必要がある。忙しいドクターは、リフィルで診療の時間をしっかり確保して欲しい。



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会